

国語 第6学年 卒業するみなさんへ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確かめる。読んだ内容を今後の学びに関わる問いに結び付け、伝えたいことを選んで短い文章にまとめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「卒業するみなさんへ」 教材名「中学校へつなげよう / 生きる / 人間は他の生物と何がちがうのか」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き、作品に合う読み方で音読できる。読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①比喩や反復などの表現の工夫に気付き、作品に合う読み方で音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げている。（C(1)オ・カ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、これからの学びについて伝えたいことが明確になるよう、読んだことや自分の経験から材料を選んでいる。（B(1)ア）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確かめる。読んだ内容を今後の学びに関わる問いに結び付け、伝えたいことを選んで短い文章にまとめる。学習指導要領のB(1)ア・C(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

作品ごとに印象に残った言葉と、そこからの考えを分けてメモする。詩は響きや反復を音読で、説明的な文章は考えと理由の関係を確かめる。進路や夢の内容を評価しない。おおむね満足できる状況は、読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○詩を音読し、反復や比喩のある言葉と自分が感じたことを確かめる。 評価：学習状況を見て

支援する。

第2次 第2時：○説明的な文章を読み、書き手の考えと理由から自分の問いを考える。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時（本時）：○作品から考えたことを伝え合い、今後考えたい問いを明確にする。 評価：思①（発言・学習記録）

第3次 第4時：○書く材料を選び、これからの学びへの文章にまとめる。 評価：思②（完成した文章）・態①（学習前後の記録）

6 本時の指導（3／4）

（1）本時の目標

読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げられる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」

【めあて】詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確認する。

予想される児童の反応：・詩の繰り返しから感じたことと、説明の理由から考えたことは異なる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」

読んだ内容から今後考えたい問いを記し、自分の経験と結び付く材料を集める。これからの学びについて伝えたいことを決め、使う材料と使わない材料を分けて理由を書く。互いの問いと選んだ材料を紹介し、考えが広がった点を記す。

予想される児童の反応：・詩の繰り返しから感じたことと、説明の理由から考えたことは異なる。

・同じ言葉でも作品の中での働きがある。

・これからの学びで確かめたい問いができた。

指導上の留意点：作品ごとに印象に残った言葉と、そこからの考えを分けてメモする。詩は響きや反復を音読で、説明的な文章は考えと理由の関係を確かめる。進路や夢の内容を評価しない。

想定する難しさ：卒業の決意だけを書いて教材と結び付かない。詩に説明文と同じ答え方を要求する。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げている。（問いの記録・文章に使う材料の選択と理由・交流後の記録）

思② 伝えたいことが明確になるよう、読んだことや経験から書く材料を選んでいる。（材料の選択と理由）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・これからの学びで確かめたい問いができた。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこ

から考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

